

救急部

●体制

救急部は初期診療センターを構成し、病院内の初期診療への対応に力を入れている。時間内の救急外来は2名の救急部専属の医師（日本救急医学会指導医）が対応している。内科系救急疾患については総合内科医も協働して1次救急から3次救急まで救急患者の初期診療を行っている。専門的な治療、技術が必要な場合には各科の救急担当医がそれに当たる。循環器センター（CCU）と脳神経外科（頭部外傷を含む）は第3次救急医療施設として365日24時間体制で重症患者の受け入れを行っている。

夜間（時間外）、休日は内科系医師3名、外科系医師2名、研修医3名の計8名が救急外来の担当医として日当直を行う。さらに循環器内科、脳神経外科、産婦人科、小児科、麻酔科は毎日単科で当直に入っており、総数13名の医師が当直している。またすべての科は当直時間帯にも専門科医が治療を行うことができるようバックアップ体制を敷いている。

救急部には救急初期治療室（2名対応可）の他、救急処置用ベッド12床の、経過観察入院用病室2室を擁している。

当直医は当直時間帯での業務に関しては当直業務マニュアルに則って行っており、研修医への教育、指導体制も整えている。

2017年度は救急車受け入れ9800件を含む年間総数26536件の救急患者の受け入れを行った。

●専従スタッフ

部長 木内俊一郎
副部長 新谷 裕

●実績

（2017年度救急部受け入れ患者の内訳（2017年4月から2018年3月まで））

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
救急患者総数	2102	2219	2054	2476	2242	2032	2179	1929	2326	2667	2219	2091	26536
時間内 患者数	499	488	518	540	588	475	597	483	508	561	546	524	6327
時間内救急車数	181	169	212	207	219	171	207	187	185	182	200	200	2320
時間内 入院数	158	159	154	150	176	202	191	169	150	157	167	150	1983
時間外 患者数	1603	1731	1536	1936	1654	1557	1582	1446	1818	2106	1673	1567	20209
時間外救急車数	585	603	566	716	645	564	608	594	600	725	629	645	7480
時間外 入院数	319	301	294	336	317	246	311	292	327	377	314	351	3785
1次	1625	1759	1606	1990	1749	1584	1677	1468	1849	2133	1738	1590	20768
入院総数	477	460	448	486	493	448	502	461	477	534	481	501	5768
救急車数	766	772	778	923	864	735	815	781	785	907	829	845	9800
救急車入院	246	225	247	260	237	226	257	252	237	294	284	281	3046
紹介患者数	234	191	223	195	205	204	251	184	213	209	216	195	2520
小児総数	679	778	757	945	732	655	621	558	876	966	751	627	8945
小児外来	538	643	630	777	570	524	469	438	738	824	632	490	7273
小児救急車	135	169	181	227	176	130	114	114	161	219	152	164	1942
小児の入院	141	135	127	168	162	131	152	120	138	142	119	137	1672
小児紹介患者数	71	59	66	55	61	67	77	51	63	52	45	49	716
CPA	5	2	2	2	7	3	10	8	11	11	12	13	86

●研究課題

1. 集団災害時におけるヘリコプター救急医療ネットワークの構築
(木内俊一郎、新谷 裕)
2. 携帯電話を用いた個人医療情報通知システムの構築
(木内俊一郎、新谷 裕)
3. アセトアミノフェン中毒における拮抗剤、毒性代謝産物の動態に関する研究
(新谷 裕、木内俊一郎)
4. 臨床的死因と死後画像診断 (Ai) で得た死因の比較と評価
(木内俊一郎、新谷 裕)
5. 熱中症からの急性循環不全における凝固線溶系への影響
(木内俊一郎、新谷 裕)